

夏休みを楽しく過ごすために



もうすぐ子どもたちにとって、楽しい夏休みが始まります。

夏休みは、子どもたちの生活の場が学校から家庭や地域へと移り、家族や地域の人たちとのふれあいを通じて、学校生活では得ることのできない経験を味わうことができる良い機会です。一方、長い休みと暑さのために生活が不規則になりがちで、解放的な気分から思わぬ事故を起こすこともあります。

子どもたちが地域の中で安全・安心な環境のもと、楽しい夏休みを過ごすことができるよう地域の皆さんの協力をお願いします。

■市内小・中学校の夏休み期間

7月20日(土)～8月21日(水)

■市内小・中学校の学校閉庁日

8月13日(火)～16日(金)



本市では、「地域とともに育つコミュニティ・スクール」を目指し、学校・保護者・地域・行政がパートナーシップを組んで、地域全体で次世代の子どもたちをともに育てていく活動を推進しています。

子どもたちにも地域の一員として、あいさつをきちんとし、育成会や地域の活動にも進んで参加させるよう働きかけをお願いします。

■問 教育総務課学務班 ☎内線1254

学校の働き方改革に関するご理解・ご協力について

国や県では、教職員の長時間勤務を見直し、教職員が子どもと向き合う時間や授業準備に力を注ぐ時間を確保するために、学校における働き方改革に取り組んでいます。

本市でもすべての教職員が授業のための教材研究をはじめ、学級・学年経営など、担うべき業務に専念できる時間や教職員の相互連携・研修などの時間を確保することで、教育の質の維持・向上を図り、教職員が心とからだにゆとりを持って、子どもたち一人一人と丁寧に関わり続けることのできる環境をしっかりと整えていきたいと考えています。

その一環として、子どもたちが長期休業となる夏休みと冬休みの期間中に、学校閉庁日を設け、原則として職員は学校での勤務は行いません。

また、学校での電話対応の受付を原則として、次のようにさせていただきますので、保護者・地域の皆様のご理解とご協力をお願いします。

■電話受付対応時間 学校授業日 7時30分～17時30分

長期休業期間中 8時15分～16時45分

※緊急の場合や事前に学校とコンタクトを取っている場合は、この限りではありません。

※上記以外の時間帯で対応を急ぐ緊急事態が発生した場合は、市役所(☎82-1111)へ連絡をお願いします。教育委員会職員が対応します。

もっと知りタイ! 地域おこし協力隊 (第27回)

■問 地域おこし協力隊事務局 復興政策課地域振興班 ☎内線1232



将来は市内で学習塾も



コミュニティスクール

うじいえふうた 氏家風太さん(30)

私は埼玉県狭山市出身で、小中学校のA・L・Tの派遣管理の仕事に携わってきました。地域おこし協力隊制度をテレビで知り、教育関係で携わりたくて調べたところ、東松島市と出会いました。父方の祖母の実家が石巻市蛇田だったこともあり、「住み心地の良さそうな地域だな」という印象は以前から持っていました。協力隊として、この地で活動できることにご縁を感じています。

現在は大曲地区にアパートを借りて生活しています。埼玉県にいたころは苦手だったカキが食べられるようになりました。地域イベントのお手伝いでは、市民の皆さまの団結力に驚かされました。

受け入れ団体は、市教育委員会教育総務課「コミュニティ・スクール推進班。幼少の頃は、地域の方々と一緒に学校で何かをするという機会がなかったので、地域とPTA、学校が連携して子どもを育てるのは素晴らしい取り組みだと感じています。この取り組みをもっと広めていけるよう努力していきたいです。

もともと教員志望で、5歳から5年間イギリスで生活した経験を活かし、中学・高校の英語免許を取得しました。そのため、放課後子ども教室や週末学習会などで子どもたちと楽しく学習活動に取り組んでいます。今後は、英語講座などの機会も設けたいと考えているので、声を掛けていただきたいと思います。

隊員になってから7か月が経過しましたが、一員として学力向上のお手伝いが出るよう努力していきます。個人的に、将来は東松島市で学習塾を開きたいと思っているので、起業に向けたノウハウや資格も取得していきたいです。

卒業編 もっと知りタイ! 地域おこし協力隊

■問 地域おこし協力隊事務局 復興政策課地域振興班 ☎内線1232



卒業後は市内定住

地域おこし協力隊の第1号として活動を続けてきた松井さん。東京出身の松井さんが卒業を迎えました。震災後からボランティア活動に従事し、地域おこし協力隊の委嘱後は大浜定置組合、宮戸干拓生産組合を受け入れ団体に農漁業を専門に活動をしてきました。あっといふ間の3年間。改めて感じるのは、地域の皆さんの心の豊かさこと振り返ります。

地域行事や会議だけでなく、日ごろからつながりの輪を広げられました。市の魅力だけでなく、課題では「少子高齢化で5年、10年先を考えると行動しなければ、次の世代に良い状態でバトンを渡せません。協力隊も最初のメンバーが定住し、助言できる存在でなければ」と話します。

宮戸大浜地区に自宅を建てており、今後も市民として農漁業、さらには環境保全・観光振興に向けた活動を進めていきます。「地域の人とのパイプ役にもなりたいです」と使命感を口にしています。



まついなおと 松井直人さん(44)